

探究的な学習における状況		改善のポイント															
実態把握	● 児童の実態把握について、確認しましょう。 □ 年間指導計画の確認及び前学年の担任からの聞き取りによりこれまでの学習内容を把握する。 □ ウェビングやアンケート調査等により、児童の興味・関心、学習スキルについて把握する。	・年間指導計画が、児童の実態に応じて作成されているか確認しましょう。															
計画の見直し	● 年間指導計画、単元計画、評価計画等について、確認しましょう。 □ 【単元名】(例)「つなげよう!! 広げよう!! 私たちの〇〇」 □ 【単元目標】(例) 地域の特色やよさにふれ、地域への愛着や誇り、将来への夢を育む。 □ 【各学校で定める育てようとする資質や能力及び態度】 (例)・「課題設定力」日常生活や社会における事象から、自分で取り組むべき課題を見付ける。 ・「問題解決力」情報収集した事柄を整理・分析し、まとめ・表現する力。 ・「コミュニケーション力」他者と協力しながら主体的に取り組む態度。 ・「自己の生き方」自分にできることや学ぶことについて考え、自分の生き方につなげる力。 □ 【各学校で定める評価の観点、評価規準、評価方法】 (例)<table><tr><th>評価の観点</th><th>課題設定力</th><th>問題解決力</th><th>コミュニケーション力</th><th>自己の生き方</th></tr><tr><td>評価規準</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>評価方法</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> □ 【年間指導計画における教科の内容と学習スキルの関連】 (例)・国語(内容)目的に応じて情報を選択し、文章構成を考え、新聞づくりを行う。 (学習スキル)カードを用いて情報を収集し、KJ法的な手法を用いて、集めた情報を分類する。 □ 【教材についての共通理解】 ウェビング等を活用し、教材の広がりや対象、学習活動、教科との関連(内容及び学習スキル)について、確認する。	評価の観点	課題設定力	問題解決力	コミュニケーション力	自己の生き方	評価規準					評価方法					・単元の学習を通して、育てようとする資質や能力及び態度について定め、確認しましょう。 ・児童の目指す姿を想定し、いつ、どのような方法で評価するか確認し、共有しましょう(GTや保護者とも共有)。 ・教科で学ぶ内容と学習スキルについて関連させましょう。 ・思考ツールを活用し、教材について共通理解を図りましょう。
	評価の観点	課題設定力	問題解決力	コミュニケーション力	自己の生き方												
	評価規準																
	評価方法																
	探究的な学習の指導について		評価について ◎評価の観点 ○評価規準 ☆評価方法	改善のポイント													
課題の設定	● 児童の実態に応じた手立てを工夫しましょう。 (例)<table><tr><td> □ 児童が学習内容についての知識をもっていない場合 ① 複数の体験活動を通して、多くの情報を収集し、体験を比較させて考えさせる。 ② ウェビングを活用 個人⇒グループ 個人で収集した情報を取り出す。共有。 ③ KJ法的な手法を活用 グループ 情報を分類整理し、情報を把握する。 ④ 問題の序列化を行う。個人又はグループ 理由付けをしながら課題を設定する。 </td><td> □ 児童が学習内容についての知識をもっている場合 ① ウェビングやカードを活用し、個人の既有知識を書き出し認識する。 ② グラフなどの統計や写真等を提示し、児童の認知基準とのずれを生かす。 ③ 見学やインタビューなど体験活動を行い、認識との違いについて確かめる。 ④ ウェビングやカードを活用し、収集した情報を再検討し、課題を設定する。 </td></tr></table>	□ 児童が学習内容についての知識をもっていない場合 ① 複数の体験活動を通して、多くの情報を収集し、体験を比較させて考えさせる。 ② ウェビングを活用 個人⇒グループ 個人で収集した情報を取り出す。共有。 ③ KJ法的な手法を活用 グループ 情報を分類整理し、情報を把握する。 ④ 問題の序列化を行う。個人又はグループ 理由付けをしながら課題を設定する。	□ 児童が学習内容についての知識をもっている場合 ① ウェビングやカードを活用し、個人の既有知識を書き出し認識する。 ② グラフなどの統計や写真等を提示し、児童の認知基準とのずれを生かす。 ③ 見学やインタビューなど体験活動を行い、認識との違いについて確かめる。 ④ ウェビングやカードを活用し、収集した情報を再検討し、課題を設定する。	◎評価の観点 () ○評価規準 () ☆評価方法 □行動観察 □制作物(例:ウェビングやKJ法的なワークシート) □ポートフォリオ □自己評価(例:振り返りカード) □相互評価 □他者評価(例:外部講師、保護者等)	・児童の実態に応じて、多様な思考ツールを活用し、課題を設定できるような手立てを工夫しましょう。												
□ 児童が学習内容についての知識をもっていない場合 ① 複数の体験活動を通して、多くの情報を収集し、体験を比較させて考えさせる。 ② ウェビングを活用 個人⇒グループ 個人で収集した情報を取り出す。共有。 ③ KJ法的な手法を活用 グループ 情報を分類整理し、情報を把握する。 ④ 問題の序列化を行う。個人又はグループ 理由付けをしながら課題を設定する。	□ 児童が学習内容についての知識をもっている場合 ① ウェビングやカードを活用し、個人の既有知識を書き出し認識する。 ② グラフなどの統計や写真等を提示し、児童の認知基準とのずれを生かす。 ③ 見学やインタビューなど体験活動を行い、認識との違いについて確かめる。 ④ ウェビングやカードを活用し、収集した情報を再検討し、課題を設定する。																
情報の収集	● 課題や目的に応じて、相手意識をもって、多様な情報収集の方法を選択しましょう。 (例)<table><tr><td>□アンケート</td><td>□フリップボード</td><td>□インタビュー</td><td>□手紙</td><td>□電話</td></tr><tr><td>□メール</td><td>□図書資料</td><td>□インターネット</td><td>□実験・観察</td><td></td></tr></table> 「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開(小学校編)」P. 24~30 参照	□アンケート	□フリップボード	□インタビュー	□手紙	□電話	□メール	□図書資料	□インターネット	□実験・観察		◎評価の観点 () ○評価規準 () ☆評価方法 □行動観察 □制作物 □ポートフォリオ □自己評価(例:振り返りカード) □相互評価 □他者評価(例:外部講師、保護者等)	・公共の図書館や各官庁、各県市町の施設を積極的に活用しましょう。 ・ICTを効果的に活用し、遠隔地からの情報収集も工夫しましょう。				
□アンケート	□フリップボード	□インタビュー	□手紙	□電話													
□メール	□図書資料	□インターネット	□実験・観察														
整理分析	● 目的に応じた方法を選択し、比較・分類・序列化・関連付けなど手立てを考えましょう。 (例)<table><tr><td>□ベン図(共通点、相違点)</td><td>□座標軸の入ったワークシート</td></tr></table> □カード □グラフ □マップ □図 □メリット・デメリット □ビフォー・アフター	□ベン図(共通点、相違点)	□座標軸の入ったワークシート	◎評価の観点 () ○評価規準 () ☆評価方法 □行動観察 □制作物(例:ベン図、座標軸の入ったワークシート) □ポートフォリオ □自己評価(例:振り返りカード) □相互評価 □他者評価(例:外部講師、保護者等)	・目的に応じ、思考に沿った思考ツールを組み合わせて活用しましょう。												
□ベン図(共通点、相違点)	□座標軸の入ったワークシート																
まとめ・表現	● 相手意識や目的意識を明確にし、より効果的な方法でまとめ・表現する方法を考えましょう。 (例)<table><tr><td>□振り返りカード</td><td>□新聞 □レポート □報告会</td></tr><tr><td>□自己評価カード</td><td>□パンフレット □ポスター □プレゼンテーション</td></tr><tr><td></td><td>□パネルディスカッション □シンポジウム</td></tr></table> 「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開(小学校編)」P.38~44 参照	□振り返りカード	□新聞 □レポート □報告会	□自己評価カード	□パンフレット □ポスター □プレゼンテーション		□パネルディスカッション □シンポジウム	◎評価の観点 () ○評価規準 () ☆評価方法 □行動観察 □制作物 □ポートフォリオ □自己評価(例:振り返りカード) □相互評価 □他者評価(例:外部講師、保護者等)	・内容や学習スキルなど教科との関連を生かし、相手や目的に応じて、多様な表現方法を指導しましょう。								
□振り返りカード	□新聞 □レポート □報告会																
□自己評価カード	□パンフレット □ポスター □プレゼンテーション																
	□パネルディスカッション □シンポジウム																

探究的な学習における状況

改善のポイント

実態把握

- 生徒の実態把握について、確認しましょう。
 - 小学校における学習(キャリア教育関連)について、年間計画や聞き取りにより学習内容を把握する。
 - 中学校の年間指導計画の確認及び前学年の担任からの聞き取りによりこれまでの学習内容を把握する。
 - ウェビングやアンケート調査等により、生徒の興味・関心、学習スキルについて把握する。

・年間指導計画が、生徒の実態に応じて作成されているか確認しましょう。

計画の見直し

- 年間指導計画、単元計画、評価計画等について、確認しましょう。
 - 【単元名】(例) 第1学年「 仕事について考えよう 」第2・3学年 「自分の将来について考えよう」
 - 【単元目標】(例) 職場体験を通して、職業や自分に対する理解を深め、自己の将来の生き方を考える。
 - 【各学校で定める育てようとする資質や能力及び態度】
(例)・「課題設定力」日常生活や社会における事象から、自分で取り組むべき課題を見付ける。
 - ・「問題解決力」情報収集した事柄を整理・分析し、まとめ・表現する力。
 - ・「コミュニケーション力」他者と協力しながら主体的に取り組む態度。
 - ・「自己の生き方」自分にできることや学ぶことについて考え、自分の生き方につなげる力。
 - 【各学校で定める評価の観点、評価規準、評価方法】
(例)

「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」参照

評価の観点	課題設定力	問題解決力	コミュニケーション力	自己の生き方
評価規準				
評価の方法				
 - 【年間指導計画における教科の内容と学習スキルの関連】
(例)・国語(内容)日常生活や社会生活から課題を決め、材料を集め分類・整理し、構成を工夫し、考えをまとめる。
(学習スキル)カードを用いて、情報を収集する。KJ法的な手法を用いて、集めた情報を分類する。
 - 【教材についての共通理解】
ウェビング等を活用し、教材の広がりや対象、学習活動、教科との関連(内容及び学習スキル)について、確認する。

・単元の学習を通して、育てようとする資質や能力及び態度について定め、確認しましょう。

・生徒の目指す姿を想定し、いつ、どのような方法で評価するか確認し、共有しましょう(GTや保護者とも共有)。

・教科で学ぶ内容と学習スキルについて関連させましょう。

・思考ツールを活用し、教材について共通理解を図りましょう。

探究的な学習の指導について

評価について
◎評価の観点 ○評価規準
☆評価方法

改善のポイント

課題の設定

- 生徒の実態に応じた手立てを工夫しましょう。
(例)

□ 生徒が学習内容についての知識をもっていない場合

- ① **SWOT分析**を通して、自分の強みや弱みを自覚し、良いところや改善が必要なことを考える。
 - ② **フレインライティング**を通して、他者から見た自分の良さについて自覚する。
 - ③ 身近な人からの聞き取りや仕事調べなど調査活動を行う。
 - ④ **KJ法的な手法**を活用し、情報を分類・整理し、情報の共有化を図り、課題を設定する。**グループ(協同学習)**

□ 生徒が学習内容についての知識をもっている場合

- ① **ウェビング**や**カード**を活用し、個人の既有知識を書き出し認識する。
 - ② **グラフ**などの統計や写真等を提示し、**生徒の認知基準とのずれ**を生かす。
 - ③ 見学やインタビューなど体験活動を行い、認識との違いについて確かめる。
 - ④ **ウェビング**や**カード**を活用し、収集した情報を再検討し、課題を設定する。

◎評価の観点
()
○評価規準
()
☆評価方法
□行動観察
□制作物(例:ウェビングやKJ法的なワークシート)
□ポートフォリオ
□自己評価(例:振り返りカード)
□相互評価
□他者評価(例:外部講師、保護者等)

・生徒の実態に応じて、多様な思考ツールを活用し、課題を設定できるような手立てを工夫しましょう。

情報の収集

- 課題や目的に応じて、相手意識をもって、多様な情報収集の方法を選択しましょう。
(例)

□アンケート □フリップボード □インタビュー □手紙 □電話
□メール □図書資料 □インターネット □実験・観察

「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開(中学校編)」P. 24~30 参照

◎評価の観点
()
○評価規準
()
☆評価方法
□行動観察
□制作物
□ポートフォリオ
□自己評価(例:振り返りカード)
□相互評価
□他者評価(例:外部講師、保護者等)

・公共の図書館や各官庁、各県市町の施設を積極的に活用しましょう。
・ICTを効果的に活用し、遠隔地からの情報収集も工夫しましょう。

整理分析

- 目的に応じた方法を選択し、比較・分類・序列化・関連付けなど手立てを考えましょう。
(例)

□ ビフォー・アフター

学習前の自分と、体験活動や調査活動を通して情報を収集した後の自分について比較することにより、自己の成長を自覚させる。

ビフォー	アフター
仕事への考え	仕事への考え
○○○○・・・・	○○○○・・・・
自己の適性	自己の適性
○○○○・・・・	○○○○・・・・

□カード □グラフ □マップ □図 □ベン図 □座標軸の入ったワークシート

□ メリット・デメリット

自分の将来について、多様な情報や自己の適性を基に比較しながら考えを深める。

○○○○	
メリット	デメリット
仕事の特性○○○ ○・・・・	仕事の特性○○○ ○・・・・
自己の適性○○○ ○・・・・	自己の適性○○○ ○・・・・

◎評価の観点
()
○評価規準
()
☆評価方法
□行動観察
□制作物(例:ビフォー・アフター、メリット・デメリットの入ったワークシート)
□ポートフォリオ
□自己評価(例:振り返りカード)
□相互評価
□他者評価(例:外部講師、保護者等)

・目的に応じ、思考に沿った思考ツールを組み合わせさせて活用しましょう。

まとめ・表現

- 相手意識や目的意識を明確にし、より効果的な方法でまとめ・表現する方法を考えましょう。
(例)

□新聞 □レポート □報告会
□パンフレット □ポスター □プレゼンテーション

□ 振り返りカード □自己評価カード

□ パネルディスカッション □ シンポジウム

「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開(中学校編)」P. 39~44 参照

◎評価の観点
()
○評価規準
()
☆評価方法
□行動観察
□制作物
□ポートフォリオ
□自己評価(例:振り返りカード)
□相互評価
□他者評価(例:外部講師、保護者等)

・内容や学習スキルなど教科との関連を生かし、相手や目的に応じて、多様な表現方法を指導しましょう。